

授業科目	＊老年看護学演習					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	溝部 昌子						
授業概要	高齢者を取り巻く環境、心身の加齢性変化など老年看護学の基礎知識に基づき、治療、リハビリテーション、療養など様々な回復過程にある事例患者の看護過程の展開を通して、高齢者特有の看護問題と看護ケアについて学ぶ。実習室において、高齢者特有の看護技術を体験的に学ぶ。 実務家教員として高齢者看護の実務経験のある教員が、高齢者及び病態の理解、高齢者アセスメント、高齢者看護技術の実際について、講義、技術のデモンストレーション、実践の指導にあたる。						
授業形態	対面授業（一部オンデマンド）				授業方法	技術演習、グループディスカッション、プレゼンテーション、オンデマンド授業	
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	基礎的な看護過程に、対象の加齢性の心身機能の変化や高齢者特有の健康障害や療養上のリスクが考慮されている。完全ではないが、老年看護学的な種々の患者アセスメント方法を活用し、対象の理解に努めている。看護目標や看護方法が一般的な内容にとどまり、対象の意向や環境が十分反映されていない。高齢者看護技術としての下肢血流評価 ABI 測定、排尿アセスメント残尿測定などと看護過程への関連付けが十分でない。 1. 高齢患者のアセスメントで、加齢性の心身変化を考慮して情報を分析できる 2. 対象のからだ・ところ・くらし・かわり・生きがいを考慮した看護問題を抽出できる 3. 食事療法、皮膚障害、排尿障害に対する看護ケア計画を立案できる 4. 安楽を促す看護ケア計画を立案できる 5. 対象の身体可動性、心肺機能、感覚機能に応じた看護ケアの方法、目標を設定できる 6. 対象の認知機能、文化的背景を考慮した効果的なコミュニケーションを検討できる 7. 高齢者の意思決定や意思疎通を支える方法について検討できる 8. 高齢者看護技術を学生同士で実践できる						
理想的レベル	加齢性の心身機能の変化を踏まえ、高齢者特有の健康障害や療養上のリスクを理解し、老年看護学的な種々の患者アセスメント方法を駆使し、対象を理解することができる。看護問題について対象の意向や環境に応じた看護目標の設定を検討することができる。対象の残存機能を活かせる看護方法のバリエーションを複数検討することができる。高齢者看護技術において、下肢血流評価 ABI 測定、排尿アセスメント残尿測定を修得し、看護過程に活用できる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			0				
小テスト			0				
レポート			0				
発表（口頭、プレゼンテーション）			0				
レポート外の提出物			90%			①骨粗鬆症椎体骨折②脳梗塞認知症③慢性腎不全④パーキンソン病⑤肺がん患者の看護過程、⑥高齢者看護技術	
その他			10%			授業への参加態度（他者の学びを妨げない）	



テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病期・発達段階の視点でみる疾患別看護過程 照林社</li> <li>・ナースング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学② MC メディカ出版</li> <li>・ナースング・グラフィカ 成人看護学⑤リハビリテーション看護 MC メディカ出版</li> <li>・看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア 南江堂</li> <li>・ナースンググラフィカ EX 疾患と看護⑥眼・耳鼻咽喉・歯・口腔/皮膚 MC メディカ出版</li> <li>・ナースンググラフィカ EX 疾患と看護⑦運動器 MC メディカ出版</li> </ul>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護過程 照林社</li> <li>・生活機能から見た老年看護過程 第4版 医学書院</li> <li>・役立つ！使える！看護のエコー 真田弘美ら 照林社</li> </ul>
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 8 回分 90%、A-B-C3 段階評価を付し、返却します</li> <li>・その他（発表・態度）10%</li> </ul>
学生へのメッセージ・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学概論、老年看護方法論での知識を踏まえて看護過程を展開します</li> <li>・老年看護過程アセスメントガイド、教科書、配布資料を十分に活用してください</li> <li>・書籍、雑誌、インターネット、診療ガイドライン、文献など新しい知見、情報を検索し、活用するスキルも同時に必要です</li> <li>・老年看護学演習では、高齢者の加齢性の心身変化と疾病や病態との関連を理解し、高齢者特有のアセスメント技術と看護技術を駆使して看護過程を展開するため、専門基礎科目、基礎看護学、成人看護学の知識・技術の応用が求められます。</li> </ul>

